

IV-77 高層住民と一戸建て住民の生活環境意識の連想法による比較

国立公害研究所 正会員 大井 紘 近藤美則 須賀伸介
筑波大学 宮本定明 埼玉大学 阿部 治

1. はじめに

都市化と地価の高騰とによって、都市住宅の高層化は避けられない勢いであるが、高層住民の環境に対する意識・評価はいかなるものであろうか。同じ地域に住んでいても、高層住民と一戸建て住民との環境意識は、相当に異なるのではないかという観点から、著者らが開発してきた連想法¹⁾によって、アンケート調査と解析を行った。

2. 調査方法

調査対象は、①東京都板橋区のS団地、②その周辺の一戸建て住宅地、である。Sは、北に隣接して首都高速5号線が走り、徒歩10分程度で都営三田線の駅に出られるところにある。15階～25階を主体とする、約1800戸からなる1977年建設の民営マンションである。②は、Sの外周から約600 mまでの範囲を取っている。

調査は、質問紙法によった。設問として、この報告で検討する「住みよさ」、「住みやすさ」に対する連想を自由に書いてもらうもの、次報²⁾で分析する「音」に関する感想を記述してもらうもの、その他を含む。①については、低層棟以外の所帯の半数（882戸）に直接配布、郵便による返送とし、②では、住宅地図からサンプルとして選んだ800所帯に、往復とも郵送によった。配布・郵送時期は1988年5月前半である。有効回収数は、①281(31.9%)、②391(48.9%)であって、ここにすでに両者の差があらわれている。

分析のため、記述内容のうち句、文で表されたものは単語に分解し、分解後は意味を持たない語は取り除いて、回答者ごとの単語の集合を作る。回答者の集合ごとに、共通の多くの回答者に連想されている語同士を、類似度が大であるとして、群平均法によりクラスター分析した¹⁾。

3. 連想語のクラスター

3. 1 高層住民についての検討

高層住民①の回答に現れた語のうち、出現頻度が15以上の語についてタテ線でクラスターに仕切ったものを、表1に示す。ここで、語数は49であり、これらの語の少なくとも1個を連想した回答者数は271である。Dが主要なクラスターの一つで、この13語の中に頻度10位までの語のうち9個（Dの左の4個以外のすべて）である。この9個についても言えるが、Dは利便性と快適性にかかわるクラスターとして意味づけることができる。連想頻度の高い語からなる

クラスターがこのような意味を持つことは、今までにも見られたことである^{1,3-5)}。次節でみる周辺の一戸建て住民のときと異なり、学校、病院が利便性の観点から考えられていることがうかがえる。また、間取り、日当たりが高層住民にとつ

表1 高層住民の連想語のクラスター

A	B	C	D						
安物空 きれ い価気い	スゆ騒収 ペとり家 ース音納	近つ空 き管 所あ間 い理	間日病学 静広便交買環近 取り当り院校 かい利通物境い 駅	→					
				E	F	G	H	I	J
→				自子 部 通周 然供 人 屋 動囲	住設施公文 宅備設共化	安生清快 全活潔適	公プ明暖 園ライいい バシー	関家 係族	木

て快適性がらみの主要関心事なのであろう。クラスターAは、物価及び空気のきれいさという、具体項目の限定された快適性と利便性を表している。クラスターBは、騒音を除けば居住空間そのものである。その4語と騒音が結び付くのが、次報²⁾でもみることだが、高層住民の環境意識の特徴の一つである。クラスターCでは、近所づきあいが無機的な漢語と一緒にになっている。管理なる語が、高層住民側にのみ現れる（頻度順位19位）のも特徴が出ている。クラスターEは、居を定めるに当たって考慮する項目を抽象的に述べている。住居の周囲の状況へも配慮が及んでいると思われる。Fは、施設、設備という物的な整備状況で、文化の語がこれと一緒にになっている。Gは、生活環境の4要素のうち、利便以外を指していると言える。

3. 2 一戸建て住民についての検討

Sの周辺の一戸建て住民による連想語のクラスターを表2に示す。ここでも頻度は15以上で、語数55、対象となる回答者数331である。クラスターAが、利便性と快適性にかかわる主要なもので、①におけるDに相当する。頻度順位10位までの語のうち、ここでも9語がAに属する（右から7語と空気、広い）。利便性にかかわる具体的な項目としては、ここでは駅と商店街（35位）が現れる。クラスターAの右の2語は、一戸建ての特徴と言えよう。Bは、近所づきあいのクラスターである。近所づきあいと買い物がつながるのは、制限連想調査でよくみられることである^{3, 5)}。①におけるBのような建物にかかわる空間の限定感を感じさせるようなクラスターは見いだせない。Cは、「地域の公共的問題」として明確に意味づけできる。このようなクラスターが有ることが、①との大きな差異のひとつである。クラスターを樹形図の枝別れに従って更に細かく見ると、「交通公害」（左の3語）、「都市施設」（次の4語）、「公共施設」（右の5語）に分かれる（スーパーは例外的）。学校、病院がそのような意味付けのクラスターに入ることを、①の場合と比較したい。クラスターDは、「近隣の人間関係や自然を顧慮した居住性」としてくれる。近隣、周囲、人間、関係と住居、家、住宅が同じクラスターにまとまったことが特徴である。Eは、まさに「物価の安い町」である。Fは、「家族を中心とした充足と安らぎ」としてまとまっている。

4. おわりに

周辺住民については、クラスターC、Dをもって代表されるように、周辺社会への連想が④よりはるかに強い。ほぼ同じ所に居を構えていながら、高層住民とその周辺の一戸建て住民とでは、かなり生活環境についての意識が異なることが分かった。周辺社会への関心が異なることは、Sがそれなりに自足していることを示すと共に、行政が周辺の生活環境の整備について住民の理解を得るときも、異なったアプローチが必要となることを示唆し、また、環境保全への住民参加形態の違いも予想される。なお、本研究を行うにあたり、京都産業大学の勝矢淳雄博士にご討論をいただきました。記して謝意を表します。

文 献

1)大井ら：土木学会論文集(389), 83/92(1988)

2)近藤ら：第44回本学術講演会第IV部門(1989)

3)大井ら：

「環境科学」 B-295-R40-7, 74/90 (1987)

4)大井ら：

ibid., 91/117 (1987)

5)大井ら：国立公害

研究所資料 F-5-'89/NIES(1989)

表2 一戸建て住民の連想語のクラスター

A					B	C				
便交静	環近買	日空き	商広	庭木	近つ商	公騒上	整道公	施公機	学病ス	→
利通か	緑境い	物り気い	駅店街		所きあ	車害音	下備路	園設共	関校院	

→

D					E	F	G
生住周	子自関	人近住	間取		安物町	ゆ快安	安家安
活居	家困	人供然	係間隣	宅り	い価	とり適	か心族
							空太明部
							間陽い屋